

会場・オンライン
同時開催

第9回

豊中地区 共同研究講座 交流会

令和8年3月11日(水) 14:30~19:15

場所：基礎工学国際棟シグマホール

14:30	開会の辞	基礎工学研究科附属産学連携センター長 教授 芦田 昌明
14:35	挨拶	基礎工学研究科長 教授 関山 明
14:40	「先端機器デバイス開発支援計算工学共同研究講座の2025年度の活動」 ◆先端機器デバイス開発支援計算工学共同研究講座◆ 基礎工学研究科附属産学連携センター 特任教授 村瀬 晃平	
15:00	「物流自動化技術の推進2025」 ◆ダイフク物流自動化技術協働研究所◆ 基礎工学研究科システム創成専攻 教授 原田 研介 基礎工学研究科附属産学連携センター 招へい研究員 中村 友一	
15:20	「循環型社会(サーキュラーエコノミー)実現に向けた触媒開発」 ◆日本ゼオン・カーボンニュートラル先進触媒共同研究講座◆ 基礎工学研究科附属産学連携センター 招へい研究員 小島 啓佑	
15:40	「対話エージェントの接客・広告技術」 ◆先端知能システム(サイバーエージェント)共同研究講座◆ 基礎工学研究科附属産学連携センター 特任講師 中西 淳也	
16:00~16:15	— 休憩 (15分間) —	
16:15	「医薬品製剤の設計に関する計算化学的手法の開発 —乳化製剤の特性解析を中心として—」 ◆理論製剤設計学(マルホ)共同研究講座◆ 基礎工学研究科附属産学連携センター 招へい研究員 岩崎 航太郎	
16:35	「ダイセル-エンジニアリング・サイエンス共同研究講座の2025年度活動報告」 ◆ダイセル-エンジニアリング・サイエンス共同研究講座◆ 株式会社ダイセル 研究開発本部リサーチセンター所長 圓尾 且也	
16:55	「質量分析オープンイノベーションプロジェクトの活動紹介」 ◆日本電子YOKOGUSHI協働研究所 質量分析オープンイノベーションプロジェクト◆ 理学研究科附属フォアフロント研究センター 特任研究員 大須賀 潤一	
17:15	挨拶	共創機構 副機構長 (統括理事・副学長) 藤尾 慶
17:20	閉会の辞	副学長・理学研究科附属フォアフロント研究センター長 教授 豊田 岐聰
○講演会終了後	情報交換会 (~19:15)	場所：カフェテリア らふおれ <参加費：1,000円>

教職員、学生の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

問い合わせ

基礎工学研究科附属産学連携センター
E-mail : sangaku-jimu.es@office.osaka-u.ac.jp

参加申込み

<https://www.sangaku.es.osaka-u.ac.jp/>
2月25日 (水) までにお申し込みください。



申込用QRコード

第9回 豊中地区共同研究講座 交流会(2026年3月11日開催)

○「先端機器デバイス開発支援計算工学共同研究講座の2025年度の活動」(14:40～15:00)

基礎工学研究科附属産学連携センター 先端機器デバイス開発支援計算工学共同研究講座
特任教授 村瀬 晃平

超高齢社会において健康的な日常生活を持続可能とするため、医療機器をはじめとする先端デバイスの高機能化もその一翼を担うことが期待されている。たとえば血管内超音波診断において、内部構造を正確に可視化するためには柔軟で伝達性に優れたコイル状部品が求められる。本発表では力学シミュレーションによる血管内診断用コイルの特性評価例を通して、本研究講座の目指す成果について紹介する。

○「物流自動化技術の推進2025」(15:00～15:20)

基礎工学研究科附属産学連携センター ダイフク物流自動化技術協働研究所
基礎工学研究科システム創成専攻システム科学領域 教授 原田 研介
基礎工学研究科附属産学連携センター 招へい研究員 中村 友一

研究所長の原田教授から研究室の紹介、トピックスについて説明する。企業研究員からは製品化にある程度目途がついてきたので、研究講座開設、研究所開設等の歴史を振りかえりながら、企業目線で産学連携をしてよかったこと、苦労したこと、現在の状況とこれから注力することを報告する。

○「循環型社会(サーキュラーエコノミー)実現に向けた触媒開発」(15:20～15:40)

基礎工学研究科附属産学連携センター 日本ゼオン・カーボンニュートラル先進触媒共同研究講座
招へい研究員 小島 啓佑

本共同研究講座では、最先端の触媒開発技術を有する大阪大学と独自のポリマー開発技術を有する日本ゼオンとが手を携え、カーボンニュートラルの実現に向けた先進触媒技術の開発により「社会との共創」を進めることを目的としている。

化学工業ではエネルギー・資源の大量消費を伴う従来型の生産プロセスから脱却し、低エネルギー・低環境負荷型の化学プロセスを構築することが必要不可欠である。その中で、物質の変換を担う「触媒」は、次世代型化学プロセスを支える中核技術であり、高機能性触媒の開発に対する社会要請はますます強くなっている。

本報告では、2025年度の触媒開発の検討結果について報告を行う。

○「対話エージェントの接客・広告技術」(15:40～16:00)

基礎工学研究科附属産学連携センター 先端知能システム(サイバーエージェント)共同研究講座
特任講師 中西 悅也

先端知能共同研究講座は、2017年度に石黒(知能ロボット)研究室とサイバーエージェント株式会社が共同で立ち上げた研究室である。対話エージェントと人が調和的に共存できる世界の実現を目指しており、主に接客場面における対話エージェントの自律対話技術と遠隔操作技術の研究開発に取り組んできた。本発表では、その中から、なめらかな音声対話をを行うサービスロボットの取り組みと、遠隔操作接客ロボットによる操作者の能力拡張に関する研究について重点的に紹介する。また、本研究講座の現在地と今後の展望について語る。我々は、様々な接客場面における技術開発を志しており、それらに関する共同研究を歓迎する。

○「医薬品製剤の設計に関する計算化学的手法の開発－乳化製剤の特性解析を中心として－」(16:15～16:35)

基礎工学研究科附属産学連携センター 理論製剤設計学(マルホ)共同研究講座
招へい研究員 岩崎 航太郎

本共同研究講座では医薬品製剤を効率的かつ効果的に設計するための理論的・分子論的な手法の確立を目指している。その中で、医薬品製剤に汎用される乳化について、その安定性を予測するための分子シミュレーションモデルの構築に取り組んできた。これまで、乳化膜を単純化した3相構造(水-界面活性剤-油)モデルを用いて、界面張力、界面厚、局所密度や分子配向等の界面構造を分子レベルで定量化することで、界面活性剤の界面濃度変化に伴う界面の歪みや不安定化挙動を解析してきた。得られた結果は、分子構造差が界面特性に与える影響について実験的知見と整合していた。現在、これらの挙動を適切に評価する物理化学的指標を用い、実際の製剤条件に即した乳化安定性予測法の構築を目指している。

○「ダイセルエンジニアリング・サイエンス共同研究講座の2025年度活動報告」(16:35～16:55)

基礎工学研究科附属産学連携センター ダイセルエンジニアリング・サイエンス共同研究講座
株式会社ダイセル 研究開発本部リサーチセンター所長 圓尾 且也

当共同研究講座では「高エネルギー体の燃焼時に生じる衝撃現象の原理解明とその利用技術開発」と「未来社会のニーズと大学シーズを融合させた新規研究テーマ探索」を講座ミッションとしています。今回、当講座の2025年活動の振り返りと2026年度の計画並びに研究トピックスを紹介します。

○「質量分析オープンイノベーションプロジェクトの活動紹介」(16:55～17:15)

理学研究科附属フォアフロント研究センター
日本電子YOKOGUSHI協働研究所 質量分析オープンイノベーションプロジェクト
特任研究員 大須賀 潤一

当プロジェクトは、平成29年4月に共同研究講座として発足し、平成30年4月、生命機能研究科、蛋白質研究所の部門と日本電子YOKOGUSHI協働研究所として統合・再編された。令和5年に蛋白研栗栖教授に参画いただき、豊中・吹田にまたがる4研究室からなる協働研究所として運営されている。開設以来、研究開発の推進のみならず、人材育成、学内外の機関との連携など産官学の分野に多くのユーザーを抱える理化学機器メーカーならではの展開を目指してきた。このため産官学にまたがるテーマを実践する場として学内ののみならず他大学や研究機関との共同研究や自由な議論をする場として「ワイガヤ会」の開催を推進してきた。